

(4-1) 真に支援が必要な方への確実な対応

◆取組の進捗状況

- 複合的な課題を持つ困難事例への対応
各関係機関が一堂に集まり支援方法を検討
⇒「総合的な支援調整の場（つながる場）」を開催 6回
(9月末)
- 虐待防止に向けた啓発や、関係機関・各種支援専門機関との連携を強化
⇒「要保護児童対策地域協議会」：6回（9月末）
「虐待防止研修会・啓発（児童）」：開催予定
- 「くらしの相談窓口いくの」の運営
 - ・しごとや生活に関する各種相談・支援
 - ・関係機関の情報共有や支援体制の検討



(4-1) 真に支援が必要な方への確実な対応

●こども地域包括ケアシステムの運営

- ・子育て支援CSWを区社協に配置
すでに地域で機能している見守りネットワークにおける「こどもの見守り」機能を強化
- ・情報共有サイト「**キントーン (kintone)**」の活用
子育て支援に関わる行政機関・関係団体・NPOなどが個人情報を除く支援や相談に関する情報交換
利用登録者数 9月末 123名

⇒ 課題を抱える家庭やこどもが
関係機関や団体等につながり、
必要な支援を受けられる状態を
めざす。

●子育て相談体制の強化

家庭児童相談員1名増員

まちぐるみでこどもを育てるためにつなごう！
「生野区こども地域包括ケアシステム」



大阪市生野区役所

情報共有サイト キントーンログイン画面

(4-1) 真に支援が必要な方への確実な対応

● 里親制度の普及啓発

区役所内アンケート実施時に啓発



● こどもサポートネット事業（こどもの貧困対策関連）

学校と区役所が連携し、こどもと子育て世代が抱える課題に対して総合的支援を効果的に行う。
スクリーニング会議（9月末 31回開催）



【業績目標】

- ・ 重大虐待ゼロの状態を維持する。
- ・ こども虐待や高齢者虐待などの専門家、支援機関、学校や保育園が参加したワークショップ（連絡会）アンケート結果で、理解が深まったという意見が75%以上

(4-1) 真に支援が必要な方への確実な対応

◆課題など

少子高齢化、核家族化が進む中、高齢者、障がい者、こども、ひとり親家庭、生活困窮者など**支援が必要な方に必要なサービスが確実に届く、取りこぼしのない支援が求められている。**



【今後の方向性】

支援を必要とするすべての人々が、一人ひとり社会とつながりを持ちながら健やかに暮らせることができるよう取組んでいく。

(4-2) 貧困の連鎖を断ち切るための支援

※こども未来部会関連：(2-2)次世代の学校づくり（「生野の教育」の実現）と同取組

◆取組の進捗状況

●生きるチカラを育む課外授業「みらい塾」 ※こどもの貧困対策関連の取組

当該中学校に在籍する生徒（学年は問わないとする）を対象に、民間事業者等を活用した大学生等による悩み相談と課外授業を行うことで、**学習習慣の定着と基礎学力の向上とともに自己肯定感の醸成**をはかり、「**自ら学ぶ力**」の定着をめざす。

- ・大池中学校 毎週月・木曜日（7名/定員1コマ15名）受講率
- ・東生野中学校 毎週火・金曜日（10名/定員1コマ15名）49.0%
- ・田島中学校 毎週火・金曜日（15名/定員1コマ10名）9月末現在
- ・新生野中学校 毎週火・木曜日（17名/定員1コマ10名）

※塾代助成カード利用者38名（利用率77.5%）

（教科）英語・数学・国語

（時間）①18:30～19:40 ②19:45～20:55

※時間帯の①と②はどちらかを選択



(4-2) 貧困の連鎖を断ち切るための支援

【業績目標】

参加者に対し、事業実施前と後にアンケートを行い、「学校の宿題以外にどれくらい勉強していますか」という設問について、「勉強をしない」「全くしない」と答える生徒の割合を半減させる。

◆課題など

- ・ 学習習慣の定着等や自尊感情の醸成をより効果的に行う必要がある。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大防止等、より安全・安心にできる課外授業にする必要がある。
- ・ 受講者が定員の半数である。



【今後の方向性】

- ・ 「いくの塾」や「生きるチカラまなびサポート事業」等の他の事業や学校と連携する等、学習習慣の定着等や自尊感情の醸成がより進み、対象の生徒が参加したくなる事業をめざす。
- ・ 生徒がより安全・安心して参加できるような課外授業にしていく。

(4-2) 貧困の連鎖を断ち切るための支援

※こども未来部会関連：(2-2)次世代の学校づくり（「生野の教育」の実現）と同取組

◆取組の進捗状況

●生きるチカラまなびサポート事業 ※こどもの貧困対策関連の取組

安全・安心

「キャリア教育」や「性・生教育」を支援する
「生きるチカラまなびサポーター」を学校の要請
に応じて派遣する。



- ・ 派遣回数 16回（9月末時点）
- ・ 今後の派遣予定 40回（年度末見込）
- ・ 登録講師 36名（9月末時点）

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、
1学期の講師派遣に延期が発生しました。

(4-2) 貧困の連鎖を断ち切るための支援

【業績目標】

事業実施後のアンケートで、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という設問について、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」といった否定的な回答をした受講者の割合を小学校、中学校とも、6.0%未満にする。

◆課題など

- ・自らの力で未来を切り開いていくための自尊感情の醸成や底上げが必要。
- ・学校への講師派遣や講座数をより充実させる必要がある。

【今後の方向性】

子どもたちの自尊感情の醸成に向け、より活用件数を増やしていくため、より幅広い職種、業種の講師登録をはかりながら、より使いやすいカリキュラムづくりに取り組んでいきます。

(5-1) 人々の人権を互いに尊重し認め合える環境づくり

◆取組の進捗状況

人権啓発推進員と連携して、様々な人権に関する課題解決に向け取り組んできたが、コロナ禍のため、従来の取組を再構築し、子ども向け事業として人権啓発図書貸し出し（学校園等へ）や、大人向けの事業としてSNSを活用した人権週間啓発事業（人権啓発動画）の公開を実施し、人権課題への理解を深める。

- 人権啓発図書貸し出しの実施（1月～予定）
- 人権週間啓発事業（人権啓発動画作成）の公開1回（12月予定）
- 広報紙「ふれ愛」の発行1回（3月予定）



広報紙「ふれ愛」

(5-1) 人々の人権を互いに尊重し認め合える環境づくり

【業績目標】

人権週間啓発事業（人権週間動画）：視聴回数：150回以上

◆課題など

多様な人権課題への理解促進のために、偏見や差別意識をなくす取組が必要である。

また、近年増加するニューカマーを含めた全ての外国籍住民の方に対して、適切でわかりやすい情報発信、情報提供が必要である。

【今後の方向性】

引き続き、人権啓発推進員と連携し、区民に多様な人権課題の理解を深めていただくための取組みを進める。また、外国籍住民の方に対しては、やさしい日本語や多言語に対応するなど適切な情報発信・情報提供を行う。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により中止となった映画会の補完事業として、様々な事業での啓発物（クリアファイル）の配布等も行う予定。

(5-2) 外国籍住民とのコミュニケーション媒体の活用・地域住民との交流促進

安全・安心

◆取組の進捗状況

- ・ 防災や基本生活情報の「やさしい日本語」による情報発信（通年）
- ・ 広報紙の「多言語翻訳版」をアプリで配信（通年）
- ・ 区内日本語学校等、**外国人コミュニティとの連携強化**(通年)
- ・ 区内中学校等における「やさしい日本語」講座開催
- ・ 新型コロナウイルス感染症、ワクチン接種関連情報をやさしい日本語や多言語翻訳で発信
- ・ 豊かなコミュニティのプラットフォームづくりに向けた支援
 - 「やさしい日本語」協力店舗・協力者募集(通年)
 - 「やさしい日本語」缶バッジ・ステッカーデザインの配布(通年)



(5-2) 外国籍住民とのコミュニケーション媒体の活用・地域住民との交流促進

【業績目標】

区役所による情報発信が外国人に対しても配慮されていると回答した区民の割合：50%以上*

◆課題など

外国籍住民のための防災情報や生活情報が必ずしも十分に伝達できておらず、また、外国籍住民が地域住民の一員として地域コミュニティに参加できる機会が少ないため、引き続き取組が必要

【今後の方向性】

在日韓国・朝鮮人をはじめとして、区内60カ国を超える外国人が地域住民の一員として安心して暮らせるためのコミュニティづくりを引き続き支援

- ・多文化共生に向けた話し合いの場づくりの支援
- ・「やさしい日本語」を介したコミュニティづくり 等



『子育てにやさしく教育につよいまち』への課題

～「令和3年度 生野区運営方針」より～

こども・子育て環境

- 安心して子育てできるように、**子育て情報を得やすくし、孤立化しがちな子育て世帯が気軽に相談でき、交流できる機会**を設ける等の支援が必要。
- 次世代を担う若い世代を区内へ呼び込むために、区の内外の人々に**安心して子育てできる環境をアピール**することが必要。
- 絵本読み聞かせの必要性や楽しさを知る機会を提供することにより、**親子のコミュニケーションやこどもの知的好奇心を高める**ことが必要。

学校教育環境

- 学校配置を見直して小規模校を解消し、適正な教育環境に**することが必要。
- 保護者・地域が連携してこどもを育む**ために、学校に興味・関心を持ってもらうよう、**特色ある学校づくり等について情報発信**を進めることが必要。
- 小中の交流を活性化**し、中学校区単位で児童・生徒のふれあう機会を増やすとともに、その機会を通じて**教員間の交流**を図ることが必要。
- 学校における取組への支援と課外での学ぶ機会を確保し、**こどもへの多様な学習機会を増やす**ことが必要。

令和3年度
主な取組

こども未来

安心してこどもを産み育てることができる環境づくり
子育てが楽しくなるまちづくり

未来を生き抜く力の育成
次世代の学校づくり（学校配置の見直し・「生野の教育」の実現）

未来を生き抜く力の育成
まちの教育力を上げる

(1-1) 子育てが楽しくなるまちづくり

《 生野区まちぐるみ子育て宣言 》

すべてのこどもが笑顔で暮らせるように、
「みんなで子育てするまち」をめざす。

子育て宣言に沿った「まちぐるみの子育て」を3地域で実施
「こどもの気づき」冊子配布（6月～）

《 子育てに関する効果的な情報提供 》

- ・ 子ども・子育てプラザの子育て情報サイト“**いくのde育～の**”を活用
アクセス数：3,805件（9月末）
[計測不能により8月分を除く]
- ・ 区長による「いくみん子育て通信」



【業績目標】

- ・ 子育て応援イベント参加者数：平均人数が前年度以上（200名以上）
- ・ 生野区子育て情報サイト“いくのde育～の”のアクセス数：前年度以上（8,149件）

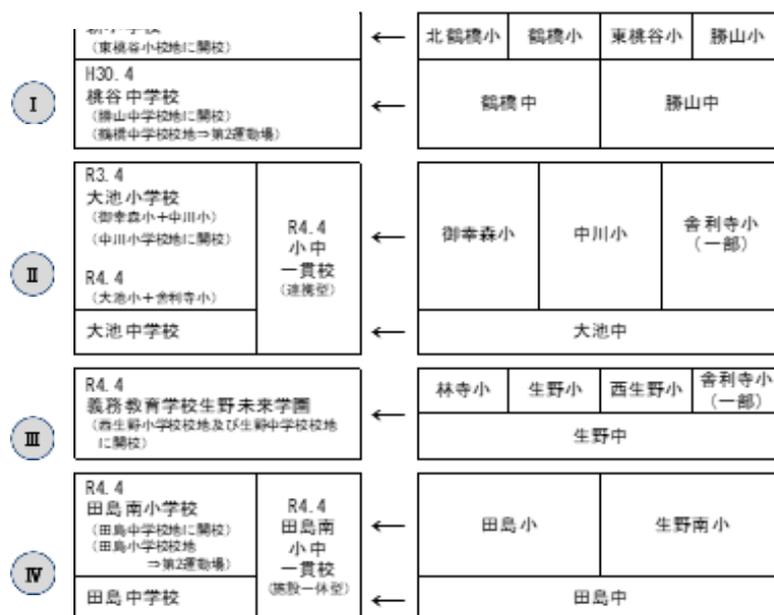
(2-1) 次世代の学校づくり(学校配置の見直し)

生野区西部地域学校再編整備計画の推進について

生野区西部地域学校再編の概要

(4中4小 ← 5中12小)

生野区西部地域学校再編の概要



- 新たな小学校の施設として活用
- ◇ 新たな中学校の施設として活用
- △ 新たな中学校の第2運動場として活用
- ※ 小学校の学校再編までの間、新たな中学校の第2運動場として活用

【業績目標】

学校再編整備計画に基づき、学校適正配置検討会議を経て、通学路の安全対策等を決定する。



(2-1) 次世代の学校づくり(学校配置の見直し)

◆取組の進捗状況（10月末現在）

●生野中学校区学校適正配置検討会議

- ・ 3回開催
- ・ 生野未来学園の標準服等決定（8月）

●田島中学校区学校適正配置検討会議

- ・ 4回開催
- ・ 田島南小学校の標準服等、校章 決定（8月）

●大池中学校区学校適正配置検討会議

- ・ 3回開催
- ・ 小中一貫校の名前が「小中一貫校 大池学園」に決定（10月）